学べるゲラ

第87回
京都工学院、壁に阻まれ8強ならず

※2025年1月の毎日新聞記事を元にした文章です。
校閲し、直すべきところを指摘してください。

第104回全国高校ラグビー大会は1月1日、東大阪市花園ラグビー場で3回戦8試合があった。9年ぶりの花園出場で、伏見工からの校名変更後初の出場となった京都工学院は、国学院栃木に5―21で敗れた。

◇

赤黒のジャージーが花園の第1グラウンドに返ってきた。

京都工学院にとって花園の第1グラウンドは、優勝4回の伏見工時代に数々のドラマを生んできた舞台。だが、12大会ぶりとなる8強に向け、乗り越えるべき壁はあまりに高かった。

序盤に相手のセットプレーから2トライを許し、後手を踏んだ。相手陣内で突破を何度試みても、堅いディフェンスをなかなか崩せない。徐々に押し返してくる国学院久我山の圧力を前に、本来の強みである展開力は影を潜めた。

反撃の糸口がつかめないまま、前半を無得点で終えた。2年生のSH杉山祐太朗選手は「個人プレーになってしまい、周りを生かし切れなかった」と悔やんだ。京都工学院は後半にラインアウトからモールで押し込み、意地の1トライを奪ったが、反撃もそこまでだった。

久しぶりの花園の舞台にラグビーファン、卒業生らから期待が高まった。伏見工はドラマ「スクール・ウォーズ」のモデル。ラグビーを通じて荒れた生徒を更正させ「泣き虫先生」と呼ばれた元監督

の山口良治さんも全試合をスタンドから見守った。

選手はその期待を感じながらプレーし、2回戦ではBシードの中部大春日丘（愛知）を破った。杉山選手は「お客さんの顔がよく見えて、応援を肌で感じた」と振り返り、「今までの戦い方では全国の壁は乗り越えられないことが分かった。この悔しさを新チームでは忘れない」と声を震わせながらも前を向いた。

伏見工が4回目の花園優勝を成し遂げた第80回大会（２０００年度）で主将だった大島淳史監督は「ひたむきに取り組み、次こそは花園のこれより先で勝っていくきかっけをいただいた」と今大会の意義を語った。名門復活に向けた京都工学院の新章は始まったばかりだ。